

④ 認知症総合支援事業について

目 的

認知症になっても尊厳を保持し希望を持って暮らし続けることができるように、医療と介護の連携により、早期相談支援の取組を推進し、認知症の本人と家族が住み慣れた地域で役割と生きがいを持って社会参加ができる地域づくりの取組をすすめていくことを目的としています。

【 認知症施策の推進 】

（１）医療と介護の連携の推進

市民が認知症等に関してより早い時期から医療受診できるよう体制を確保するために、かかりつけ医と専門医の中間的な位置付けとして「もの忘れ相談医」を登録し、その情報を市民に提供することにより、認知症の早期発見及び早期治療を推進しました。

認知症の方の尊厳を大切にしたいケアを目指し、医療・介護職等の研修会を実施しています。認知症マップ（つるマップ）の作成等については、認知症に関する市民ボランティアのつるおかオレンジサポートの会等が中心となり、病院、救急隊、介護施設がつながり、認知症ケアに活用されています。

【R7実績】

① 認知症対応力向上研修会

- ・対象者 病院の医療従事者・介護保険事業所の介護従事者
- ・実施日 令和7年11月28日（金）
- ・テーマ 『認知症基本法時代の認知症ケア』～BPSDをサインととらえ、効果を見える化～
- ・参加者数 71人

② 認知症キャラバン・メイトフォローアップ研修会

- ・対象者 事業所、企業等に勤務する認知症サポーター養成講座の講師である認知症キャラバン・メイト
- ・実施日 令和7年10月7日（金）13：30～15：30
- ・テーマ キャラバン・メイトの役割と活動推進について ～次への一歩～
第二ステージを迎えた「認知症サポーターキャラバン」
- ・参加者数 55人

③ 「もの忘れ相談医」登録制度に関する事業

- ・「もの忘れ相談医」登録数（R8.4.1現在）：28箇所（病院1、診療所27）登録医師数29人

（２）本人及び家族の思いを伝える場づくりの推進

各地域包括支援センターに配置している認知症地域支援推進員を中心に、各地域包括支援センターや社会福祉法人、地域住民、関係組織や市民ボランティアつるおかオレンジサポートの会等と連携し、認知症理解する教室、認知症カフェ等を開催しました。

【R7実績】

① 認知症を理解する教室

- ・目 的 認知症の方や家族が認知症に関する正しい知識を持ち、認知症の状態に応じた適切な対応と不安の軽減を図るため実施します。
- ・開催回数：年6回 ・参加者数：187人

② 認知症カフェ（ほっこりかふえ）

- ・ 目 的 専門職によるミニ講話、認知症の方や家族、地域の方々、専門職との交流や相談により、認知症について共に学び、認知症の方や家族、地域の方々の不安や負担の軽減を図るために実施します。
- ・ 開催回数：年 12 回 ・ 参加者数：425 人

③ 認知症サポーター養成事業

- ・ 目 的 認知症に対する正しい知識をもち、認知症の人や家族を応援し誰もが暮らしやすい地域をつくっていくためのサポーターを養成します。
- ・ 開催回数：年 31 回 ・ 参加者数：100 人

④ SOS 見守りネットワーク「ほっと安心」つるおか・見守りシール「どこシル伝言板」

- ・ 目 的 認知症等で行方不明になった時、あらかじめその心配のある高齢者等の検索に必要な情報を登録しておくことで、早期発見・保護につなげるための制度です。
また、希望者には、認知症の方の衣服や持ち物などに貼付する QR コード・ラベルシールを支給しています。
- ・ 年間新規登録者数：82 人